



# 学校通信

東大和市立第八小学校 学校通信  
令和8年9月30日発行  
<http://8s.hyama.andteacher.jp>



## 校内サポートルーム

校長 平松 新太郎

学校には、毎日教室で過ごすことが難しいと感じる子供もいます。理由や困り感は一人一人異なり、必要な支え方も同じではありません。

少し前になりますが、私は、東京都の「学校外の子供の多様な学びに関する調査研究事業 令和7年度成果報告会」に参加してきました。フリースクールなどで学ぶ子供を対象に、興味・関心を引き出す活動や、一人一人の実態に寄り添う支援の方法についての研究が発表されました。自然や地域、表現、遊び、ICTなどを入口にしながら、子供が自分の好奇心と出会い、新たな学びの場でと踏み出す姿が示されていました。

大切にしたいのは、登校や教室復帰だけを急ぐことではなく、子供が安心できる大人や場所とつながり、自分のペースで学びや人との関わりを取り戻していけることでした。

私は、子供が学びに向かう力は、安心できる環境の中で育つと考えます。苦手なことをすぐに克服しようとする前に、好きなこと、得意なこと、やってみたいことなどを見つける時間を大切にしたいと思います。

例えば、読書や工作、タブレット端末での学習、絵や写真による表現、少人数での活動など、参加の仕方を選べるようにすることで、子供は無理なく学校とのつながりを保ちやすくなります。小さな一歩を認め、次の一歩につなげていくことが、学びを続ける力になります。

東大和市では、校内の在籍教室以外であれば登校できる児童・生徒のために、校内サポートルームを設けています。心を休め、学び直し、学校とつなげるための居場所です。八小では、月曜日から木曜日までの週4日間開設しています。校内サポートルームでは、子供の実態に合わせて、1人1台端末を活用したAI型教材や、室内の教材、在籍学級と連携しての教材などに取り組むことができます。

子供の成長は、同じ道で同じ速さで進むことだけが正解ではありません。教室で学ぶ日、校内サポートルームで落ち着いて過ごす日、好きなことから学びを広げる日など、一人一人に合った参加の仕方があります。

学校は、子供が安心して助けを求め、自分らしく学び続けられる場所でありたいと考えます。保護者の皆様と子供たちの思いを共有しながら、一人一人の子供が「ここなら大丈夫」と思える学びの環境をつくっていきます。

ご心配なことがある場合は、担任、養護教諭、または、副校長へご連絡ください。

まずは、相談すること自体が、子供たち一人一人に合う支援を一緒に見つける最初の一歩となります。